

# 関電に追い風 先行きは不透明

## 中間貯蔵の建設調査容認

### 山口の町長意向表明

中国電力と関西電力が共同開発を目指す原発の使用済み核燃料の中間貯蔵施設を巡り、山口県上関町議会は十八日、臨時議会を開き、西哲夫町長が建設に向けた調査を容認する意向を表明した。終了後、中国電に容認方針を伝えた。中国電は今秋にも施設の立地が可能か調べるボーリングに着手する方向で検討している。＝関連②面

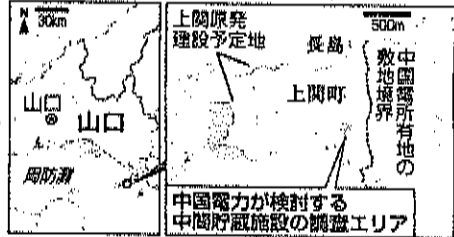
### 福井県との約束期限迫る

山口県上関町で原発の使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設に向け、調査が行われることが決まり、福井県内で保管されている使用済み核燃料の県外搬出問題にも一定の影響を及ぼす可能性がある。関西電力と福井県との約束期限が年末に迫る中で、中国電力と共同開発する調査をめぐっては、追い風を捉えようとした。ただ、上関町は調査を受け入れたにすぎず、町内には反対意見もあり、実際に建設されるかは見通せない。こうした不透明な状況も踏まえ、核燃料の搬出も原燃協会は「調査は福井県との約束を果たした」と言えるのか「を判断する必要がある」。

福井県内の使用済み核燃料を核燃料の中間貯蔵施設に搬出する位置付けは、福井県にあり、調査も福井県が主導する。調査は今年末までに中間貯蔵

### 今秋にも着手

中間貯蔵施設は、使用済み核燃料を日本原燃の再処理工場（森原六ヶ所村）に搬出するまで一時的に保管する施設。建設されれば東京電力と日本原力発電が出資するリサイクル燃料貯蔵の施設（青森県むつ市）に次いで二例目となる。ただ再処理工場は稼働の見通しが立っていない。保管が



長期化する懸念もある。調査を始めると最大で年一億四千万円、山口県知事が建設に同意すると二年で最大十九億六千万円の交付金が国から得られる。西町長は議会で「町は急遽に稼働が進み、就任以来強い危機感を抱いている」と述べた。「建設と調査は別」との見解を示した。採

- 2021年2月12日 関西電力が福井県に対し、23年末を期限として中間貯蔵施設の県外候補地を確定させると表明。守れなければ原発3基を停止させると約束
- 23年2月 山口県上関町が中国電力に地域振興策を要請。中国電は上関町に中間貯蔵施設の建設を提案し、関電には共同調査を打診
- 6月12日 関電が高浜原発（福井県高浜町）の使用済み核燃料の一部をフランスに搬出すると発表。森原社長は福井県に「中間貯蔵と同等の意義がある」と説明
- 8月2日 中国電が関電と共同で中間貯蔵施設の建設を上関町で検討すると表明
- 18日 上関町が臨時議会を開催。西哲夫町長が中国電に調査容認を伝達

決はされなかったが、町議十人のうち明確に反対意見を述べたのは二人だった。終了後に記者会見し、中間貯蔵施設について「最終処分場になる」との考えは持っていない」と述べた。住民を戸別訪問して丁寧な情報提供することなど四つの条件を付けた。議会出席のため西町長が乗った車が後場に到着すると、反対派住民らが約三分間取り囲み、一時騒然となった。調査予定エリアは上関町の長島にある中国電力所有地の建設予定地と区別の一面だ。ボーリングは十カ所程度を予定。樹木の伐採が必要で、少なくとも準備に一月かかる見通し。

今回の調査開始について、関が福井県への回答の中でのように位置付けは、福井県にあり、調査も福井県が主導する。調査は今年末までに中間貯蔵

(佐々岡博康)